

特集 ジェンダーと児童文学

ここ数年、性自認や性的指向に関する認識は急激に変化している。それらは児童文学にどのような現れ始めているだろうか。

ジェンダーという視点は、無意識の領域に深くしみこんだ感覚を問い直す。児童文学が、感覚やものの考え方を構築していく渦中にある子どもたちを相手にしていると自覚するなら、持つべき視点の一つだろう。

本特集は、児童文学をジェンダー観点で問い直し、「らしき」に縛られない、より自由な地平を模索するものである。

